

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0791100043		
法人名	有限会社 タムラ		
事業所名	グループホーム はこべ 南棟		
所在地	福島県田村市常葉町常葉字七日市場99番地		
自己評価作成日	平成26年 3月24日	評価結果市町村受理日	平成26年6月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	平成26年4月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

2013年6月1日開所。大震災、原発事故後認知症の利用者が多く1ユニット増設となりました。地域住民の皆様によく支援頂いて少しずつですが、放射線量の減少が見られる中で、明るく、楽しく家族のように、利用者さんに寄り添った介護を続けていきたいと心より思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 地域との関わりを大切にし、近隣住民や幼稚園との積極的交流と各種ボランティアを受け入れながら地域交流に努めている。
 2. 管理者と職員は、利用者の意向や希望を大切にし利用者に寄り添った支援に努めており、家族の信頼も厚いことがうかがえる。
 3. 医療機関と医師との連携が密に図られ、訪問診療や往診、外来受診等利用者が安心して受診できる体制が整っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日常のケア実践が理念に合ったものか、常に話し合いを持っている。全職員が理念を共有出来るように努めている。開所時や新人職員にも理念について説明している。	開所時に同法人隣接事業所の理念を事業所理念とした。その理念を事業所内に掲示し、職員採用時や会議の中で理念を説明しながら実践につながるよう努めている。	開所間もないこともあり、同法人事業所の理念を事業所理念としているが、地域密着型サービスの意義や事業所の現状、利用者状況等をふまえ、全職員で話し合い事業所独自の理念を作ることが望まれる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	はこべ祭りや避難訓練には、地域住民にお知らせを配布して御協力して頂いている。近隣の幼稚園より行事の招待を受け訪問している。雑巾を縫い、プレゼントした。	近隣幼稚園との交流や踊り、環境整備等のボランティアの受け入れ、農家の方による事業所農園の手伝い、地区の祭りへの参加、事業所行事等の広報を利用者と職員が戸別配布しながら挨拶を交わすなど交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域、家族の方から認知症の相談を受ける事がある。認知症の理解や症状への対応などを話しする事もある。町内で認知症の方を発見し、地域の方と協力して自宅へ送り届けた事があった		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催して、多方面の方々に協力して頂き、有意義な意見交換が出来ている。	運営推進会議は定期的で開催されている。会議では事業所の現状等を報告し、委員から意見やアドバイスを頂きながらサービスの向上に活かすよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃より、市の担当者、地域包括支援センター職員と連携が図れるように努めている。こまめに情報交換を行っている。	市の担当者とは日頃から情報交換を密にし、事業所の抱えている課題の相談や、市の担当者から情報提供をいただくなど協力関係を築くよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が、身体拘束の弊害を理解して、日常ケアの中に拘束になるような事が無いか確認している。夜間以外は、施錠せず自由に出入り出来るようにしている。	管理者及び全職員が勉強会を通して、身体拘束の具体的な行為と、身体拘束の及ぼす影響について理解を深め身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、身体拘束かどうか判断の難しいケア場面では、管理者自ら手本を示し、共通理解を図るよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会で勉強会を行って、日々のケアの中で意識してケアを行っている。常にケアの中に虐待と思われる事が無いか確認しているが、学ぶ機会が少ないので、今後研修、勉強会等多く参加して学んで行きたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について、全職員の理解には至っていない。勉強会実施予定している。必要がある利用者様、家族に対しては、制度の活用につなげて行きたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、重要事項説明書を丁寧に説明して理解して頂いている。また、いつでも疑問があればその都度十分な説明を行い納得して頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には、管理者が出席して、運営状況や行事報告を行い状況を報告している。また家族面会時には、意見や要望を伺うようにしている。	運営推進会議に家族代表が参加していただき意見を表す機会を設け、面会時や通院報告、カンファレンスの際に意見・要望を聞くよう努め、出された意見を運営に反映できるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回全体会があり、代表、管理者が出席し、職員と意見交換の場を持っている。意見や要望について話し合っている。	月1回、法人が運営している同種事業所の全体会議と会議開催に向けた意見交換の際に、職員の意見や提案を聞く機会を設け、出された意見、要望を運営に反映させるよう努めている。また、管理者は日常的に業務の中で、常に職員の意見を聞くよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃より、職員とコミュニケーションが図れており、いつでも相談出来る信頼関係が出来ている。家庭の状況にも十分な配慮があり、働きやすい体制が出来ている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は、毎月1回行っている。認知症高齢者を理解してケアするにあたり、これから外部への研修等に参加してケアの質の向上に努めて行きたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	開設一年目の為、自施設の充実に力を入れて居た。職員の質の向上の為、今後、機会を作って行きたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に来る限りの情報収集を行い、その都度本人と会話をし本人との信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との信頼関係を作り、不安な事要望等を家族が話しやすいよう、相談しやすい環境を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを十分行って、カンファレンスの際、本人、家族の意向を把握して、現状に合ったサービスを検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分で出来る事、洗濯物たたみ、掃除、おしぼり丸め等を利用者さんと職員と一緒にやっている。利用者様それぞれ出来る事を一緒に行う事で信頼関係作りに努めてる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との外出、外泊の機会を持って頂けるようにしている。家庭環境の状況も十分把握している。また、面会時には、本人の状態を報告し家族と共に支え合う関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院や、昔からの馴染みのお店での買い物が継続出来るよう職員と一緒に出掛けている。	日常的な買い物や食材の買い出し、行きつけの美容院や馴染みの店での買い物等を通し関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その方の状態に合わせ、一人一人が孤立しないように職員が間に入りレクなどを行っている。常に見守り、声掛けを行い支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族の都合による契約終了、急変後入院となり亡くなられた方がいた。亡くなった後も家族が来所されたり、町内で会った際など話しをして、相談等あれば応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンスの際、毎回必ず本人、家族の意向を伺っている。日常生活の中から本人の思いなどを意識して気付きました、検討している。	日常生活の関わりの中から、本人の意向や希望を把握するよう努め、意志疎通の難しい方については表情や行動から本人の意向をくみ取り本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者、家族の方々から生活歴などを聞き取り入れたり、面会時には、その都度家族から情報を聞き一人一人生活歴を把握出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活のペースを把握して、外気浴、散歩等を個別に支援して、出来る事を日々様子観察して反映している。掃除、洗濯物たたみ、鉢植えの手入れ、縫い物、洗い物など、それぞれの入居様と行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当者を中心にして、利用者様が安全に安心して生活していくうえでの必要な情報を集めている。本人、家族の意向を伺いながら、介護計画を作成している。	居室担当者が中心となり、サービス計画に基づいたサービスの提供状況をまとめ、ミーティング、カンファレンスの中で課題分析と解決に向けた意見交換を行い現状に即した介護計画を作成している。計画の見直しは、随時見直しと3ヶ月を基本としている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や個人ノート、業務日誌等で状態を把握して、情報共有に努めケアプラン見直しに活かせるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズがあれば検討し、出来る限り対応して行きたい。本人、家族の要望を見逃さないようにして行きたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	昔からの馴染みのお店(美容院や商店)の方々に、認知症の理解、協力が得られている。また、新しい関係作りが必要な方にも支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と連携を図りながら、受診、訪問診療などが適切に行われている。また、状態の変化が見られたり、緊急時などは、ドクター指示にてスムーズに対応が出来る。	事業所の協力医を主治医にして頂くよう、家族等に説明し理解を得ている。受診の支援は事業所が主体となり行っている。利用者の状態等によっては、定期的な訪問診療を受けている。また、協力医による緊急時等の適切な医療が受けられる体制がとられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医院の看護師と連携して、状態に変化が見られた時は、その都度報告している。随時、対応のアドバイスや指示等を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	緊急入院時に備え、情報交換、相談等連携が図れるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時と、3ヶ月ごとのカンファレンスの際に、本人、家族と話し合いを行っている。事業所で出来る事、出来ない事を十分に説明して考えて頂くようにしている。	重度化・終末期の対応については、3ヶ月毎のカンファレンスの時に、事業所として出来ることを本人や家族に説明している。また、状態の変化に応じて家族と話し合い、出来る範囲内での支援に取り組んでいる。	今後、その時々事業所の力量や体制等を考慮した方針を作成し、重度化した場合の意思確認をしておくことが望ましい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを作成して全職員が対応出来るように努めている。まだまだ、勉強不足な所もある為、学ぶ機会を多くして、緊急時等に備えたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署が近隣にあり、地域の方々に御協力して頂き、開所後初めての避難訓練を実施して学ぶ事が出来た。色々な意見、アドバイス、反省点を活かし協力体制を築いていきたい。	事業所開設後初めて、昼間火災を想定した防災訓練を、消防署と地域住民の協力を得て実施している。訓練結果の意見やアドバイスを今後の訓練に活かすようにしている。	火災だけでなく地震や風水害等を想定した、多様な訓練が体験出来るよう、計画的に実施されることが望まれる。また、多くの地域住民や地域消防団との協力体制を築くことが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心やプライバシーに配慮して、傷つけないように丁寧な言葉で声掛けを行い対応している。職員同士、対応を確認している。	人格を尊重した言葉遣いや誘い、プライバシーを損ねない、さり気ない声掛け等で対応している。また、馴れ合いからくる本人の人格を無視した対応が無いよう、日常的に職員相互で注意しあっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人となるべく対話する時間を作るよう心掛けその都度希望を伺っている。また、言葉の少ない方には、職員がこまめに声掛けを行い、本人の思いを把握出来るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに合わせて、レクリエーションなどに参加して頂いている。利用者様の希望に合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	口紅を自分でつけて来られる方や髪を気にされ整える方には、見守り、声掛けを行っている。身だしなみも職員が好みを伺って行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	その日食べたい物をメニューにしたり、一緒に餃子作りやお好み焼き作りを行い、食事の時職員も一緒に食べ会話をしながら楽しみながら時間を過ごしている。	献立は利用者からの要望や、食材の在庫を考慮して臨機応変に対応している。利用者は野菜の下処理等を職員と一緒にし、会話をしながら楽しく食事をしている。また、食材購入に出掛けたり、ハウス畑で大根や白菜等の作物を育てる取り組みをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分量を把握し、中々水分摂取されない利用者さんに飲み物を工夫したり声掛けし摂取してもらっている。食べる量を把握し、バランスよく摂取して頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その都度声掛けを行い、うがい、歯磨きを行っている。出来ない所を職員が介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握して、トイレ誘導を行っている。早日早目に声掛けを行い失禁を減らせるように努めている。	排泄チェック表で排泄パターンを把握し、早めの声掛けを行って、出来るだけトイレで排泄して頂くよう、自立に向け支援している。また、声掛け等羞恥心に配慮した支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄パターンを把握して、食事内容に十分配慮したり水分量に気をつけている。また、運動を促して、便秘にならないように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の希望や体調に合わせて声掛け促している。余り好きでない利用者様には、声掛けて拒否されたら、時間を置いて再度声掛けを行い、それでも駄目なら職員変え出来ない時は、手浴、足浴を行っている。	毎日入浴は可能だが、大半の利用者は週2回程度の入浴を希望しており、健康状態や気分に応じた入浴支援をしている。入浴を嫌がる利用者には、時間や曜日を変える等して支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人のペースで居室やホール等で過ごして頂いている。その際に安心して過ごせるように見守りをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋の説明書は、個人ファイルで管理して一人一人の状況を把握して十分理解できるように努めている。変更後は、申し送りをして様子観察を行い注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	吊るし雛やお花を活けたり、カラオケをしたり、町の文化祭に出品する為、吊るし雛作りを楽しく行った。また、お花を活けたり、カラオケを行ったり、楽しみ作りに努めている。タバコを吸われる方には、危険の無いよう見守りを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	本人の希望を伺って、昔からの馴染みのお店や美容院などいつでも出掛けられるようにしているまた、皆で外食に出掛けた際、お店の方に協力して頂いた事もあった。	天候や身体状況に合わせて、多くの利用者に声掛けを行って、事業所近隣への散歩や買い物等の外出支援をしている。また、店主の協力を得ながら、食事会や美容院への外出支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数名の方が家族と相談して所持されている。買い物の支援への付き添いや支払いの支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、いつでも使えるようになっており、家族の方にも気兼ねなく電話して頂けるよう伝えている。手紙を送って来られる家族もあり、その都度返事を書くように促している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに飾りつけを変えたり、毎月の行事を見やすい所に掲示している。また、季節感を感じられるように配慮して飾りつけを行っている。	新築の建物で開所して間もないことから、清潔感があり明るく広く、落ちついた共用空間である。桜の貼り絵等の飾り付けを行い、利用者が見て季節を感じるよう配慮されている。また、トイレや浴室等の汚物処理器や洗濯機等の備品、雑貨品が目につかないよう、扉で仕切る工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りになりたい時は、居室に戻って独りの時間を過ごされている。気の合った利用者様同士ホール、ソファーにて寛いでおられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	使い慣れた物や家族の写真を持って来られ、飾られている方もいる。希望があれば畳の部屋にも出来るようにしている。お花が好きな方は鉢植えを手入れされている方もいる。	衣装ケースや椅子、家族写真等が持ち込まれ、希望により洋室を畳部屋に変える等、利用以前の生活状況に近い環境作りをして、居心地良く生活ができるよう支援している。また、ベッド脇にはクッションマットを敷いて、怪我の予防策を講じている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレやお風呂場には、わかりやすいように目印を付けている。時計やカレンダーなど見やすい物をつけている。		